

原発をなくする想いを共有される皆様へ

福島第1原発の建屋の中で、ガレキになった「核の平和利用」と名づけられた核の火は、人間を拒否したまま生き続け年が明けました。

昨年暮れ近く〔Sound Demo & 命のWA/和〕という若い人たちの企画を知り、私は引きつけられ関わりました。音楽オンチですが、老人の私にも役割がありました。

前もって、車に取りつける看板を手作りして文字を書き、乾かせていました。森松町の友人、重松さんが仲間からお借りしていた上等の軽トラに、二人でわが家で看板を取りつけ市内へ。夜にかけて音楽家のメンバー総出で音響機器を取り付け準備完了。三階建てのガレージへ。そしてわが家に帰ってうまい泡盛を飲み満ち足りた気分です。

当日、事故の急報で現場へかけつけました。息をのみました。これ程の事故で運転していた重松さん、助手席のT君、よくも無事でいてくれました。彼らの精神的ショックとダメージは想像をこえますが、今のところ外傷は見えません。このようなケガは後から症状がでることが多いので、今後のケアが何より大事です。命が宝ですから。ガレージの中でよかった、道路だったらと思うと・・・何より救いでした。

サウンドの仲間たちは必死で音響機器チェックしています。張りつめた現場で、私は声をかけることなど出来ず、現場は無言の緊張感、デモ出発の時間、時計の針は無常に進みます。

一瞬太陽がさしこんだように彼らの顔々に笑顔が伝わり、リーダーのD君からOKのサインが。

ここから私の仕事です。サウンドデモに音楽がなかったら・・・時間がないが、どうしても間に合わせねばなりません。中島さんの働きで仲間から借りた軽トラの代車が横に待っています。事故車から看板を取り外し代車へ、そして音響機器を宝物のように代車へ。ギリギリセーフ。いつでも出発できるようにデモとの合流点で待っている人たちの所へ。

リーダーの人たちが事情を知って、動揺しないように平静をよそおってどれほど気配りしてくれたことか。予定では重松さんが運転でした。本人もその気のようにですが、事故の責任を一身に背負いこんでいる彼に運転させることはできません。私が強引に運転を横取りしました。私の方が年長だから、彼もあきらめてくれたと思います。

デモ出発、バックミラーで後ろを見ると何事も無かったように整然と進むデモ。すばらしい音楽は人の心を鼓舞し、明るくし、団結させてくれます。昨日来のことが走馬灯のように頭の中をまわります。思いきりアクセル踏みこんで時速100キロで大音響で音楽を流して街中を走りまわりたい気分でした。少し落ち着き、うれしさと安堵感が入り交じって胸の奥が熱くなり涙が流れてくるのです。

何かの都合で重松さんの役回りが私になったかも知れません。

私たちはすばらしい仲間恵まれています。ひとりひとりの力は弱くても集まれば強くなります。どうか事情をご理解くださり、ご協力をお願いいたします。

2012年1月

松山市高浜町1-60-416

久保田一郎